

きょういく さど



令和5年2月6日
第86号
佐渡市教育委員会
学校教育課

学校に笑顔と活力を

教育総務課長 柳澤 正二

令和4年9月「佐渡市小学校・中学校再編統合計画」が策定されました。出生数は平成29年には300人を割り込み、児童生徒数・学級数の減少、学級規模の縮小が今現在も続いています。

適正な学校規模に向けて、令和2年7月より有識者を座長とする「佐渡市新たな学校教育環境整備検討懇談会」を立ち上げ、アンケート調査、地域座談会、園・小・中の保護者及び市民との意見交換会、パブリックコメントを経てこのたび決定されました。

市の再編統合による学校規模を小学校は1学年1学級以上（複式学級解消）、中学校は1学年2学級以上（クラス替え可能）とし、地理的条件から小中連携校の継続も確認しました。

地域における学校の果たす役割、価値から、再編統合への再検討、反対意見もありました。その趣旨は理解できます。しかし、今回の計画は一定規模の児童生徒の学習集団の確保等を第一としたものです。反対意見は課題ととらえ、保護者、地域住民代表等で構成する再編統合協議会で、解決策を一緒になって模索したいと思います。

協議会は、理解と納得をいただきながら丁寧に進めます。再編統合の合意をいただいてからも、2年間の準備期間を確保し、スムーズなスタートを切れるよう配慮します。

再編統合により、互いに刺激しあいながら笑顔と活力ある学校づくりとなるよう教職員の皆様のお力添えをよろしくお祈りします。

令和4年度の学校訪問を振り返って

下越教育事務所 指導主事 平野 徹

今年度の学校訪問では、佐渡市教育委員会、各学校等からのべ27回の要請をいただき、訪問指導をさせていただきました（指導案検討等も含む）。また、免外研や初任研、教科リーダー研でも多くの小中学校に伺い、授業を拝見し共に学ぶ機会をいただきました。受け入れてくださった皆様には感謝申し上げます。

どの学校、どの教室においても「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、教材や学習活動、教師のかかわりを工夫する姿が見られました。とくに「深い学び」の姿をどう見取り、どう促していくのかについて、多くの学校で話題になりました。その際、「深める問い」によって「深い学び」を促すということを提案させていただきました。（下越教育事務所ではTea roomに「対話の地図」コミュニティを開設し、＜「深める問い」により「深い学び」を実現する対話＞についての実践例を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。下図参照）

一方で、1時間のよりよいあり方を求めるとき、「この1時間に至るまでに児童生徒はどのように学べばよいか?」「この単元においてどのような資質・能力を育てればよいか?」など単元の学びに目を向ける場面に多く出会いました。学校や教室を、教師が教える場から子どもが自ら学ぶ場へシフトしていくためには、単元を通して子どもが学ぶ姿を教師が明確にイメージすることが必須です。今年度末に発行予定のTeachers' 2023では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための単元構想について新たな提案をする予定です。ぜひ手にとって授業づくりの参考にしてください。

「対話の地図」コミュニティ開設します！



対話の地図

下越教育事務所

- ★ 下越教育事務所では、Tea roomに「対話の地図」コミュニティを開設し各教科等の実践例を紹介していきます。（コミュニティを探す→対話の地図）と検索し、閲覧してください。
- ★ みなさんからの投稿も大歓迎です。【児童・生徒が「深める問い」をもつ】【教師が「深める問い」を投げ掛ける】、二つの書式のどちらかに入力し投稿してください。投稿する場合は、コミュニティに参加申請をお願いします。
- ★ 下越地区の小中学校で「対話の地図」を共有し、「深める問い」によって深い学びに向かう授業づくりを進めていきましょう！

景色読解力で身を守る

教育指導主事 本多 アヤ子

今年度、佐渡市は文部科学省の委託を受け、両津中学校区の学校を対象に学校安全総合支援事業に取り組んでいます。この事業の取組として、両津小学校の5年生は、「入りやすく、見えにくい」をキーワードに地域を歩き、安全マップづくりに取り組みました。

今まで、何気なく見ていた景色が、防犯の視点で見ると大きく違って見えます。



〈真剣に話し合う両津小の子どもたち〉

子どもたちは、だれでも入りやすく、周りから見えにくい場所を試行錯誤しながら、安全マップに書き込んでいました。こうした危険な場所かどうかを見る力を「景色読解力」といいます。立正大学の小宮信夫教授が提唱されており、子どもたちに付けさせたい力のことです。

防犯教育として、学校では不審者対応避難訓練がよく実施されます。それももちろん意味のある活動ですが、子どもたちが日常的に、危険を回避する力を付けていくことが大切です。どうすれば犯罪者に接触しないで済むか、危険な場所を見極められるか、自分の身を守るための知識・科学する力を付けていきたいです。

子どもたちの故郷・佐渡が「安心して住み続けられる町」となるように、地域の方々と一緒に防犯教育で、人を育てる取組が広がっていくことを願います。

生徒指導の新潮流

教育指導主事 吹屋 昇

生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として文部科学省が発行している『生徒指導提要』が、12年ぶりに改訂されました。改訂のポイントは2点です。

1つめのポイントは「生徒指導の定義が変わった」点です。これまでの生徒指導は、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」でした。抽象的な表現であり、一言で表すならば「統制」といったイメージが強い生徒指導であったと思います。これに対し、新たに示された定義は「社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」です。分かりやすい表現です。一言で表せば「育ちを支える」ということでしょう。

どちらが正しく、どちらが誤りということではありません。社会の変化に応じて生徒指導に求められる主たる役割が変わったということだと思います。生徒指導の新たな流れです。

2つめのポイントは、いじめや不登校をはじめとした個別の課題に対する生徒指導についての記述が大幅に増加した点です。改訂版提要（約300ページ）の半分以上のページがこの記述に割り当てられています。内容についても各課題についての記述がさらに充実するとともに、新たにSNSや性の多様性、精神疾患、ヤングケアラーなど、今日的な課題への対応も取り上げられました。

加えて、多忙な先生方が使いやすいようデジタルテキストとして配布され、さまざまな工夫が施されています。目次やしおりから、今すぐ対応を求められている課題のページへ飛ぶことができます。さらに、関連法令等のページへ飛んだり用語を検索したりする機能も備わっています。

若手の先生から管理職まで、先生方お一人お一人の校務用PC内保存し、日常的に活用してみたいかながらでしょう。

学力向上プロジェクト（英語・数学）

令和4年度も、佐渡市教育委員会では「学力向上プロジェクト」として、中学校英語と数学の先生方の研修支援を実施しています。令和4年度もそれぞれの教科で講師を招いての講義や模擬授業参観、公開授業研修会等、工夫を凝らした研修が進められました。児童生徒の学力向上のためには私たち教員の授業改善・指導力向上が不可欠です。是非今後も主体的な研修の推進をお願いします。



(10/3 英語プロジェクト)